

# 住と健康

セカンドライフ



自分らしく生きる

2023

## ① 医療法人医新会 よろずクリニック（鳥取市美萩野1丁目）



「病気を治すことが第一」と先進的ながん治療に取り組む萬院長

体の投与ではなく、患者の免疫で抗体を作り出すため、新WT1樹状細胞療法と同様に副作用が少なく、高い持続効果も期待されている。

どちらの療法も治験が行える病院は少なく、先進の治療に望みを託す患者が全国から同クリニックに集まる。萬憲彰院長（47）は「患者さんには時間もお金も限られている。それぞれに合わせたベストの治療を選び提供する」と力を込める。

◇ ◇

新日本海新聞社は高齢者の暮らしに役立つ情報誌「セカンドライフ2023」を発行した。同誌に掲載した施設や企業の特徴やサービスマニュアルなどを4回にわたって紹介する。

日本人の死亡原因で最も多い病気「がん」。先進的な治療や検診などにいち早く取り組む同クリニックは「病気を治すことが第一」との思いから、患者の負担軽減を図りつつ、最適な治療を提案する。

現在、力を入れているのが「新WT1樹状細胞療法」と「分子標的ワクチン療法」だ。新WT1樹状細胞療法は、体内の免疫細胞の一種である「樹状細胞」にがんの目印を認識させ、がん細胞を攻撃できる免疫細胞に目印を伝え狙い撃ちさせる療法。使用するWT1ワクチンは大阪大で開発されたもので、どのがんでも発現している共通の抗原となる。自分の免疫は目のがんだけをターゲットに攻撃するため、副作用

# 患者に最適ながん治療